

持続可能な公共交通に向けた 地域主体MMへの取組

愛知県 豊橋市

発表者：平田 理恵(豊橋市都市計画部都市交通課)

■背景と目的

豊鉄バス・レイクタウン線が運行されている豊橋市の富士見台地区では、平成18年度からモビリティマネジメントと路線の改善を併用しながら利用促進の取組を実施してきたが…

平成27年度 利用低迷により現状の路線を存続させることが困難

という状況になった

現状以上の運行内容の見直しが難しい中で…

地域住民・運行事業者・行政が連携し路線を維持していく取組を実施

■プロジェクトの内容と効果

☆地元自治会と運行事業者が協力しバス利用の呼びかけ

【概要】
利用者の減少に歯止めをかけるため、地元自治会と運行事業者である豊鉄バス株式会社及び豊橋市、さらにはレイクタウン線の交通結節点である渥美線を運行する豊橋鉄道株式会社の四者が協力し、レイクタウン線の現状を知らせるチラシを、地元スーパーと大清水駅(渥美線)で配布することで、地元住民にバスの利用を呼びかけた。

【実施者】 富士見校区自治会、豊鉄バス(株)、豊橋鉄道(株)、豊橋市
【実施日】 平成28年5月31日、6月3日

【効果】
バスの現状を周知することで、普段バスを利用している方を中心に「バスを利用して、地域に公共交通を残さないといけない」という反応を得ることができた。
その後、平成28年度、平成29年度は利用者数の回復を確認でき、バスを利用することでバスの運行を支えるという意識の醸成を図ることができたと考えられる。

《 バスの利用状況 》

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
年間輸送人員推計値	69,887	61,633	52,035	64,808	61,763
※平均乗車密度	2.4	2.1	1.8	2.2	2.2



《 スーパーに買い物に来た住民に対しバスの利用を呼びかける自治会委員と運行事業者 》

※市の公的補助の基準として平均乗車密度2人未満の補助対象期間が2期以上連続した路線は補助を打ち切る。

☆小学校と地元老人会を対象とした出前講座の実施

【概要】
地元自治会と豊鉄バス(株)及び豊橋市の連携により、自身の移動手段がまだ確立していない小学生を対象に、出前講座を通して今後の交通手段の選択肢を増やす機会を提供した。
内容については、公共交通を利用するメリットや、レイクタウン線の特徴でもあるフリー乗降箇所を実際のバスに乗車しながら見学し、地域に運行している公共交通の特徴を理解することで、公共交通の利便性や必要性を感じてもらえるものにした。
また、通常は小学生のみで実施する講座に、自治会を通して地元の老人クラブも招待し、一緒に講座を受けてもらうことで、高齢者に対しても、バスの利便性を伝えることができた。

【対象者】 地元老人会、富士見小学校5年生
【開催日時】 平成29年12月15日



《 レイクタウン線の特徴や公共交通を使うメリットを説明 》 《 実際の車両を利用し運転手から乗り方を教わる 》



☆地元自治会による回数券購入費の補助

【概要】
富士見校区の自治会費で豊鉄バス回数券を購入し、割引販売を実施。自治会が主体となって利用促進を実施している。

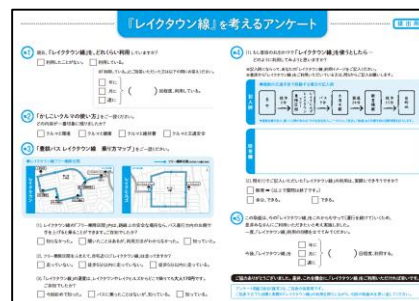
【実施者】 富士見校区自治会

☆地元自治会内でコミュニケーションアンケートを実施

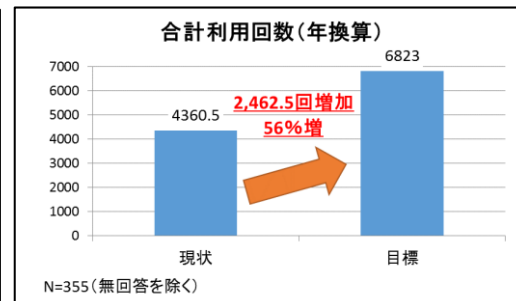
【概要】
富士見校区新旧組長に対し、レイクタウン線について考えてもらうコミュニケーションアンケートを実施。それによって、バス利用意識の醸成を図るとともに、組織メンバーが入れ替わっても、レイクタウン線を存続させるという意識の共有を図った。

【実施者】 富士見校区自治会、豊橋市
【対象者】 富士見校区 新旧組長368名
【実施日】 平成29年1月

【効果】
新旧組長に対し、コミュニケーションアンケートを実施したことにより、アンケート回答者の現状のバス利用回数よりも、今後目標とするバス利用回数の合計が56%増となり、利用意識の向上を図れたことが確認できた。



《 コミュニケーションアンケートツール 》



《 アンケート回答者の現状の利用回数と今後目標とする利用回数の比較 》

■結論

公共交通を維持、改善していくためには、行政が主体的に動くのではなく、地域主体で継続的に利用促進に取り組んでいく必要がある。
行政は、そのような環境を作っていくために、地域の地理や、住宅・施設等の立地、住民の人口や年齢構成といった地域特性を理解し、地域のキーパーソンと連携しながら、利用促進をコーディネートしていく必要がある。
今後はこうした取組を他の地域に広げ、持続可能な公共交通の利用促進を検討していく。